



Nishitokyo CRAFT BASE

Craft × shop × cafe

ものづくりのワクワク感をみんなでシェアする
コミュニケーションスペース

2016.10.2
OPEN
craft-base.com

First issue
創刊号

Nishitokyo CRAFT BASE



左：小菅 亜実（CRAFT BASE代表、株式会社コスガ工務店）
大学時代にカナダに留学し、帰国後に父が経営するコスガ工務店の4代目を引き継ぐべく邁進。2016年10月、「CRAFT BASE」を立ち上げて現在に至る。

右：谷本 建治（株式会社KAY・PLANNING代表）
美大卒業後、ゼネコン設計部勤務を経て住宅・インテリア・家具の設計を行う「KAY・PLANNING」を設立。コスガ工務店が展開するDIYカスタマイズ住宅及び、裏面の家具は谷本氏がデザインしたものの。

CRAFT BASEはクラフト×ショップ×カフェのコミュニケーションスペース

小さいころ夢中で何かを作った経験はありますか？
失敗しても、その熱は冷めず、次にもっといいものを作ろうと準備して、試行錯誤する時のあのワクワク感。思い描いたものを自分の手で形にする楽しさ。ものづくりに新しい何かを創造する力があります。
私たちコスガ工務店は、そんなものづくりのワクワク感をみんなでシェアするコミュニケーションスペースをつくりました。

楽しいことが、起こる気がします。
【小菅 亜実】

最近にわかに、「自分で作る」「DIYしちゃおう」という人が増えています。でも、その実態は「どうしたらいいかわからない」という人が多い。そういう人が集まって情報交換するところが「CRAFT BASE」です。地域にはいろんなことをしている人が必ずいるから、人を紹介し合い、情報交換をして横のつながりをつくっていく。楽しいことが起こる気がします。

西東京市（東伏見）は、私の家族全員が生まれ育った街です。親戚もいっぱいいます。先代からお付き合いしているお客さんもたくさん住んでいます。だからこの地域を楽しい街にしたいんです。若い人も来ていただいてもっと面白くしたい。美味しいお店がたくさんあって気軽に立ち寄れる場所にしたい。レストランでも居酒屋でもカフェでもいい。そんなコミュニケーションができる場所が増えて欲しい。そういう場所がいっぱいできた街が勝手に変わって思うんです。そう思ったらいいな、面白いかなって思って「CRAFT BASE」をつくりました。

CRAFT BASEは、私の生き方。
【谷本 建治】

「CRAFT BASE」は、私の生き方としての「チャレンジ」です。この活動の終着点は、次の時代に向けて「地域の暮らし」を描くことです。

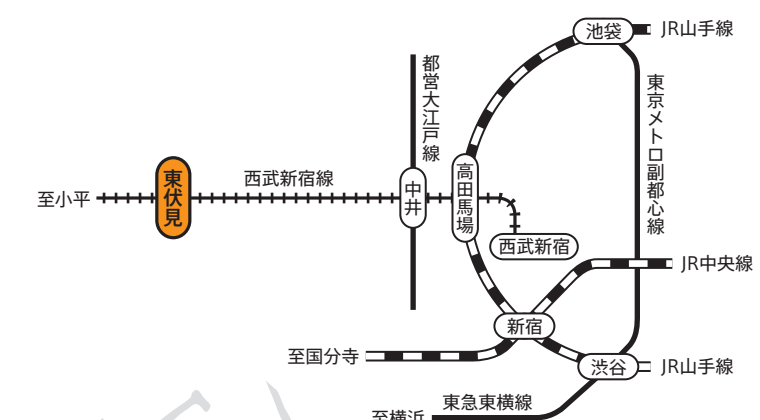
これからどどん人口が減る、社会保障も減り、年金ももらえない、それでも税金は上がっていく。いい話は無い訳です。私はその中でどれだけ楽しい生活をおくれるかに執着しています。どうせやるなら楽しいこの方がいい。今の閉塞感を破るためには、楽しいなあと思うことは行動に移した方がいい。体験したり、「コミュニケーション」をとることが一番の起爆剤になるはずだと思っています。そういうことが起こる場所を自分たちの地域につくって、まず、自分たちで動き出してみようと思えます。

近い将来、住みたい人が増えて不動産価値も上がるかもしれない（笑）。そうすると建物の使い方や建て方も変わってくる。木造賃貸住宅の1階を、個人事業者が借りられるサイズのショップにしたり、地域に住むお年寄りのリフォームを、若い人たちの力でDIYしたり、障害を持った人たちとコミュニケーションする場が自然発生的に生まれると思います。その時、これをどのように応援できるかが問われるはず。私は、その時代に

Nishitokyo CRAFT BASE

craft-base.com

〒202-0014 西東京市富士町4-5-15
TEL: 042-461-4943



Nishitokyo CRAFT BASE

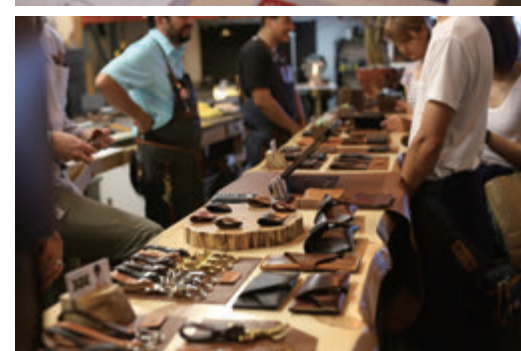
Nishitokyo CRAFT BASE 2016.10.2 OPEN

ささやかですがお披露目会を開催します！

2016.10.2 12:00~16:00

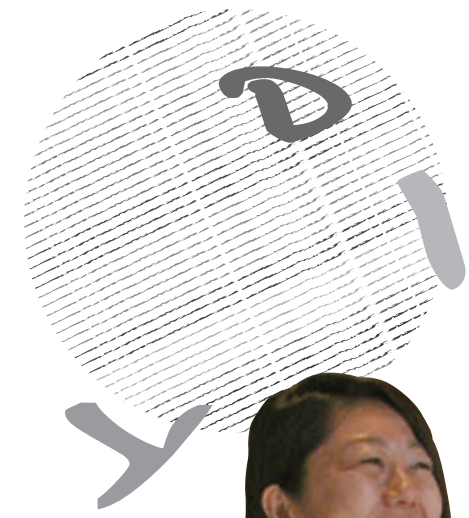


8月末にプレオープンしてから約2日遂にNishitokyo CRAFT BASE オープンを記念して、10月2日はお披露目会を致します。当日はハンドドリップコーヒーや物と、ちょっとした軽食をご用意しますので、お気軽にお立ち寄りください。



生活ベースのDIYへ。【谷本 建治】
マイホームを建てる、車を買う、そして子供を大学に通わせて現役を引退したら年金で暮らす。これは戦後につくられた成功イメージです。そして多くの日本人がこのイメージを共有しました。国はこのイメージに向けて様々な制度をつくり、企業は新商品を開発して売り上げを伸ばした。そして多くの人の所得は増え、この豊かさを実感させる消費は増え続けた。右肩上がりの時代には、終身雇用や年金もあやしいから、死ぬほど働いて生活を切り詰めマイホームを建てようと考えている人は少ない。これは先に小菅さんが話した通りです。
そんなことをコスガ工務店さんと話していた時に出てきたアイデアが、生活をベースにしたDIYという発想です。これは、質の高い住宅をローコストでつくる一つの方法です。インテリアや造作材、間仕切りなどを全て外し、基礎や外壁などの法的に絡むところはプロがきちり工事する。あとは、住まい手が住みながら少しずつ作っていくというスタイルです。
このスタイルを誰もが受け入れられるとは限りませんが、でも、いまの時代であれば、この価値観に共感する人が少なくないと思います。
自分たちで作ったモノに囲まれて暮らしていると、「ああ、これが私たちのスタイルなんだ」と感じることがあります。自分たちで考えてカタチにした暮らしには、豊かな時間が流れます。それは「自分たちでつくる」という行為の中に、「家族や仲間それぞれの想い」や「ともに作り上げた時間」そして「成し遂げた達成感」が宿るからです。いま、この価値観をカタチにする一つの方法がDIYという生活のスタイルです。
欧米ではDIYが生活に根付いています。ちゃんと手入れた家が三十年後に高い値段で売れるから、でもスクラップアンドビルドが主流だった日本では、この文化が育っていません。だからこそ、「CRAFT BASE」のような場所が必要です。
まずは、楽しそうだなとか、体験してみようかなという視点の移動でいいと思います。どうぞDIYを楽しむんでください。【谷本 建治・株式会社KAY・PLANNING代表】

Always DIY



「CRAFT BASE」は、家づくりに関わるDIYや小物作り、雑貨作りなど、生活に関係するものづくりワークショップを開催していきます。週末はイベントという形で、地域のクラフトに関係のある人々を呼んでマーケットも開催します。そして、道行く人たちが誰でも入れるようなカフェもオープンさせる予定です。このカフェは、地元のお年寄りの方々が朝のお散歩のときに立ち寄れる「早朝カフェ」からスタートさせます。私自身、どれも初めての試みですので、一人ではなく、皆さんの力を借りながら楽しんでやっていきます。そして勝手に運営できるように頑張ってきます。順次、ランチやバーもやりたいです。欲張りですがね(笑)。「CRAFT BASE」は、自分たちの手で何かをDIYしている人たちがつながる地域のコミュニケーションスペースとして、気軽に立ち寄れるような場所を目指していきます。



「CRAFT BASE」は、家づくりに関するDIYや小物作り、雑貨作りなど、生活に関係するものづくりワークショップを開催していきます。週末はイベントという形で、地域のクラフトに関係のある人々を呼んで

Nishitokyo CRAFT BASE
気軽に立ち寄れるような場所を目指していきます。



Nishitokyo CRAFT BASE ノコギリとインパクトドライバーで、つくるDIY家具。

「CRAFT BASE」では、ノコギリとドライバーでDIYできるシンプルな家具をデザインしています。

この家具は、家づくりの現場で発生する端材を組み合わせてつくるシンプルな家具です。デザインのポイントは無垢の木の良さがわかる仕口の接合方法。小さな材を使って組み上げる断面がとっても美しい家具です。

塗料や接着剤は子供が舐めても大丈夫な自然塗料を使っています。現在8点を試作していて、順次、シリーズ化した商品にしていきます。



Nishitokyo CRAFT BASE 「CRAFT BASE」は、DIYカスタマイズ住宅「しんぶる+」を体験する場。

コスガ工務店が企画したDIYカスタマイズ住宅の「しんぶる+」の室内仕上げは、無垢材・集成材・ラーチ材で仕上げるインテリアです。

「CRAFT BASE」は、この仕上げを実際に見ていただく場であり、これらの材料や端材などを使って、DIYで家具づくりを体験していただく場です。

今後はDIYに使うオススメの商材の販売や施工体験の場もつくっていきます。



写真は現在試作しているDIYの家具の一部です。順次、シリーズ化した商品にいきます。



Portland report



今年の8月、「CRAFT BASE」のオープン準備の視察として「DIYマインドの聖地であるポートランド」に行ってきました。

ポートランドはテレビのドキュメンタリーで「全米一生活しやすい街、暮らしたい街ナンバーワン」という切り口で紹介されていたんです。私自身は、クリエイティブな人が集う街というイメージを持っていたので、自分がやろうとしていることに近いかもしれないという期待感が高まり、行くなら今しかないなってことで行ってきました(市のまちづくりに携わっている方のガイドを受けて)。

ポートランドは、ほとんどのビルが建て壊し禁止となっていて、リノベーションをしているんです。だから外観の豪華さがあるわけではなく、でも内装は凄くおしゃれでかっこいい。まー、ここまでは予想していた通りだった。でも、それだけではなかった。ポートランドには何かを隔てる境界線が存在していないんです。つまり普通は、建物があって、学校があって、行政がいて、全部別々に存在していて、そこに点々とコミュニティがある。そんな感じで都市ってイメージがつけられていると思うんですね。でも、ポートランドは、全てに境界線がない感じなんです。全てが一つにつながっているというか、そういう部分がとても多くて、結果的には都市という形態なんですけど、それは都市ではなく、ポートランドというコミュニティなんです。もちろん、ポートランドの中にはそれぞれのコミュニティがあるんですけど、それが全部つながっ

ているから、ポートランド自体もコミュニティだよなって感じなんです。

市が作ったポートランドを紹介するビデオを見ていたら、何人かの市民が「ポートランドイズ○○」みたいな紹介の仕方をしていて、その中の一人が、ポートランドイズコミュニティと言ったのが私にはとってもしっくりきた。このビデオを見る前に、あちこちのお店に入ってざーっと感じていたんですね。「この感覚はなんだろう?」って。そっか、境界線がないんだって思ったらしっくりきたんです。

日本だと植木屋さんと植木を売るだけみたいなのが多いけど、ポートランドでは、必ずと言っていいほどワークショップやライブをしていたりする。植木と全く関係ないことをやっている。自転車屋さんの半分がカフェになっていて、夜になるとライブをやっている。日本でも限定したエリアでそういう試みをしているところもあるけど、街の中のどこでも当たり前に行われているっていうのは、ポートランドならではだと思う。しかもこれを行政が主導してとか、そういうことではなく、市民の人がそれを当たり前で思っていて、みんなが行動に移しているのがすごい。その感覚が一番のキーポイントで、そういうのが許される社会環境がある。

何事にも境界線を引かない人が多くて、パブリックとプライベート、仕事と遊び、食べ物と遊び、食べ物と教育とかが全部融合している感じ。ほとんどの人は一つの職を持つという考え方がない。一つの会社に勤め上げるみたいな価値観も存在していない。個人起業家がものすごく多くて、みんな好きなことにチャレンジしている。ダメだったらやめればいい、そんなシンプルな考え方で横の人とつながっている。

ポートランドに行く前は、「CRAFT BASE」単体をどうするかということに執着すぎた部分があったけど変わりましたね。業種の形態とか、そのお店が何屋さんなのかみたいなことにとらわれなくていいのになって。ベースとしてはものづくりをやるんですけど、もっと色々な人に入ってもらう色んなことをやればいいのかになって。そういうきっかけとなるような場所と人がいれば、あとは勝手にみんながやりますよ、と思えるようになりました。

わずか1週間の滞在でしたが、私の全てにインパクトを与えた旅でした!